

青少年のための科学の祭典 2019 参加報告

本年10月5日(土)・6日(日)の二日間にわたり、名古屋市科学館/でんきの科学館にて標記の「名古屋大会」が開催されました。私たちは日本接着学会中部支部のスタッフとして参加しました。この科学の祭典は、子供たちに科学への興味・関心を持ってもらえることを目的とした企業や大学・高等学校などの教育機関がブース展示やステージ・ワークショップなどを開催する毎年恒例のイベントです。今年も大勢の子供とご父兄に参加していただきました。

日本接着学会中部支部は、「粘着で貼り絵」と「接着で工作」の二つのテーマで出展し、“接着の面白さやその扱い方を学んでもらうこと”を目標に、創意工夫を凝らす工作体験を通じて来場した子供たちに接着を身近に感じていただきました。

「粘着で貼り絵」では、3色(ピンク・黄色・水色)の半透明なシールを駆使して各自選んだ白黒の台紙に飾り付けをしていただきました。子供たちは用いたシールの重複による色の濃淡や色彩の変化を体験の中で学び感じていました。同時に接着だけでなく、科学への興味を持つきっかけになっていただけたと思います。

「接着で工作」では、ホットメルト接着剤とグルーガンを用いて数種類の形状の木材(ブロック片)を接着・組立して作品作りをしていただきました。限られた時間の中、ブロック間に隙間がない作品を几帳面に作るお子さんや故意にずらしたり歪ませたりすることで独創性のある作品を作るお子さんなどが見受けられました。中には2回目3回目と何度もブースを訪れるお子さんもあり、前回の続きをしたり、新しく作品を作ったりしている中で接着について疑問を投げかけたり、より早く正確に作品を作ろうとする過程で図らずも科学への興味・関心が触発されていると感じました。また、この楽しい思い出が記録できるように、当日参加した子供たちの作品をホームページに掲載しました。(URL: <http://adhesion-centjp.sakura.ne.jp/log/eid99.html>, Google “接着中部”で検索すると支部HPがトップに出ます) 私たちも参加者が入場する前に見本としていくつか作品を制作しましたが、子供たちは私たちの想像を超える多くの作品を柔軟な発想で制作しており、感心させられました。

今回のイベントを通して、子供たちのもつ“ものづくり”における創意工夫や柔軟な発想は様々な知識によって凝り固まった思考では生み出せないものもあるのだと気づかされました。また、この発想の豊かさが、科学への興味・関心によって、社会へ貢献する様々なアイデアへと昇華されることを期待したいと思いました。最後に、自然科学を研究する一人の人間として、このような科学への尽きない興味・関心や未知への飽くなき探究心を忘れずになりたいと思いました。



写真1 出展ブースの風景 (1)



写真2 出展ブースの風景 (2)

岐阜大学工学部 化学・生命工学科 物質化学コース 4年
粕谷 直人, 山田 裕貴, 渡邊 雄大